

福岡・博多にゆかりのある
福岡県知事指定特産民芸品

博多曲物(はかたまげもの)

茶道具、飯びつ、弁当箱など、木の味わいを生かした生活用品として愛用されています。

博多曲物の起源は、諸説ありますが、江戸時代より盛んに作られはじめ、福岡市にある管崎宮の神具として、古くから奉納されてきた伝統を有しています。

博多独楽(はかたこま)

心棒に鉄を使った日本ではじめてのコマです。

1300年前、中国から子供たちの遊びものとして竹製の唐ゴマが日本に伝えられ、17世紀後半、木台に鉄芯の心棒を打ち込んだ博多独楽が作られました。博多独楽は、コマを作る材料と回す技術、舞台における曲技の三位一体を成して今日に受け継がれています。

博多鉄(はかたばさみ)

唐鉄を改良して作り出された、切れ味が自慢の和鉄です。

今から、約700年前、南宗の帰化人である謝国明が博多に鉄を持ち帰ったのが、唐鉄と称し日本で最初のもので、幕末の頃博多猪屋町に住む刀鍛冶師の安河内卯助がこの唐鉄の製作に取り組み世に出ました。

博多張子(はかたはりこ)

端午の節句や博多どんたく(にわか面)や十日恵比寿(飾り鯛)など、庶民の暮らしの中には、欠かせないものです。

江戸中期、博多御用商人が上方(大阪)へ張子を学びに行ったといわれ、起きあがりこぼしが庶民の暮らしの中で愛されてきました。

マルチグラス

性質の違う色ガラスが何層にも重ねられ、美しい芸術品に生まれ変わります。

昭和12年のパリ万国博覧会で、日本のガラス工芸としては初のグランプリを受賞しました。伝統を受け継ぎ、高度な技術を持つベテランクラフトマンたちによって、ひとつひとつ息を吹き込まれたマルチグラスは色彩豊かな工芸品として親しまれています。

今宿人形(いまじゅくにんぎょう)

節句人形や厄よけの「猿面」など昔ながらの特徴を受け継いでいる民俗土人形

明治38年に今宿に節句人形工房を開いたのがはじまりです。伝統的な生活文化や伝承文化、信仰など人々の暮らしに結びついたものが多く見られます。

博多おきあげ(はかたおきあげ)

布地で立体感を出し繊細緻密な面相(顔)が特徴的です。

江戸時代に宮中で起こり、女の子の出生を祝して、羽小振や雛人形を贈る風習が盛んとなりました。明治、大正時代には博多の女性の教養の一つで、女の子が誕生すると、災いをねのけ健やかに育ててほしいという想いを込め、おきあげを贈る習慣がありました。

マップ | MAP



【交通アクセス】

車：都市高速呉服町ランプより5分

鉄道：地下鉄空港線、七隈線「博多駅」

下車徒歩6分

バス：博多バスターミナルから徒歩5分

【営業時間】

10:00～18:00(入館は17:30)

【休館日】

毎週水曜
(祝休日の場合、翌平日休館)

【入館料】

無料

【駐車場】

なし(公共交通機関をご利用ください)



HP



Instagram



Facebook



伝統の“新しい”がここにある

はかた伝統工芸館

HAKATA TRADITIONAL CRAFT AND DESIGN MUSEUM

福岡市博多区博多駅前1-23-2 Park Front 博多駅前一丁目1階

☎ 092-409-5450 <https://hakata-dentou-kougeikan.jp/>



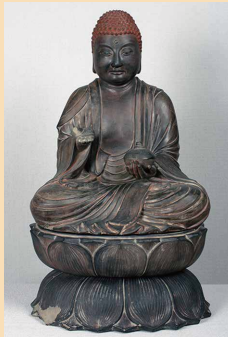
伝統の“新しい”がここにある

はかた伝統工芸館

HAKATA TRADITIONAL CRAFT AND DESIGN MUSEUM

2 博多人形薬師如来像

展示品の薬師如来坐像は、天保10年(1839) 四代正木宗七の作である。正木家の祖は藩州の瓦師、正木仁兵衛。その四代目に当たる分家の初代正木惣(そう) 七が瓦師から陶工師に転じ、黒田家の御用焼物師を勤めたのが「宗七焼き」の始まりである。以来六代にわたり技術の研鑽・工夫に努めた。本像の作者・宗七幸弘はその四代目にあたる。「宗七焼」は、仏像のほか茶道具、香炉、面、床の間の置物など精緻な作品を多く生み出した。



3 ミニ山笠

ミニ山笠は、博多人形商工業協同組合青年部が企画制作したもので、実物の1/8の寸法で出来ています。山笠台は実物と同じように棒締めを行い、人形や飾りも実物と同じ素材を使用しています。



4 博多織

今から約780年前、一人の僧(後の聖一国師)とともに、若い博多商人満田弥三右衛門が宋へ旅立ち、織物の技法等を得て帰国。その後、代々受け継がれたのが始まりです。時代とともに改良が加えられ、黒田長政が幕府に献上したことから「献上博多織」の名が起りました。現在では帯だけでなく、ドレスやバックなど多彩な商品が登場しています。

5 博多人形

1600年黒田長政の筑前入国に伴って多くの職人が集められ、その職人たちの中から素焼き人形が生まれ、現在の博多人形の下地が作られたといわれています。明治になり、パリなどの国際的な博覧会で高い評価を受け、日本を代表する人形として知られるようになりました。現在では、純日本風な家屋にはもちろん、洋間のモダンな住まいにも癒しの空間を演出しています。



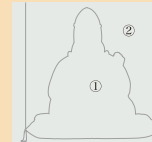
メイン展示

博多織と博多人形のコラボ作品
「福の神」と「博多献上物語」

1 福の神

Fuku-no-Kami (God of Good Fortune) 中村信喬 作 ①

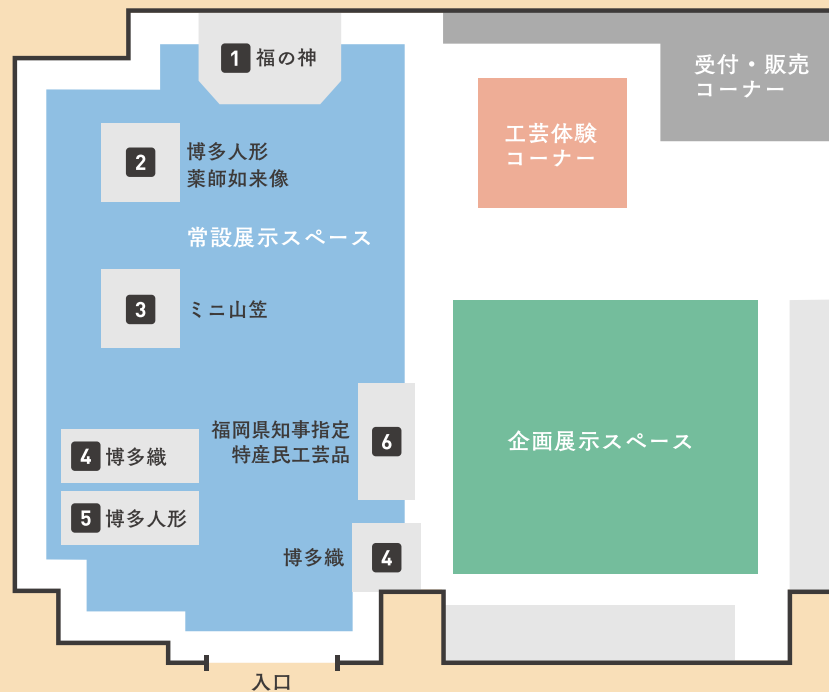
博多人形師・中村信喬氏が手がけた約70cmの博多人形。大蔵流狂言『福の神』では、毎年来る参拝者に大変感心し、楽しく謡って舞い、福を授けて神殿に帰っていくという神様です。来館者に福が授かるようにと願いが込められています。



博多献上物語 (博多織)

History of Kenjo Hakata-ori 筑前織物 作 ②

博多織のルーツを3枚の織物で表現しています。「玄海」の青色に波をあしらひ、中国から渡ってきた織物と仏教を表現しています。「献上」の原本となった真言宗の法器である「独鈷・華皿」。それぞれの帯には「華皿」の貝象柄を象徴的に、中央の帯には、「独鈷」の貝象柄を、右の帯には、古代博多織五色献上の五色を用い「華皿」を図案化した柄を、左の帯には、「独鈷」を図案化した柄、親子が互いに見守る様を表現した親子縞・子持縞をデザインしています。はかた伝統工芸館を象徴する展示品として、新たに織り上げました。



6 福岡県知事指定特産民芸品

博多曲物、博多独楽、博多鉢、博多張子、マルティグラス、今宿人形、博多おきあげなどの福岡・博多にゆかりのある、福岡県知事指定特産民芸品を紹介しています。



常設展示スペース | Permanent Exhibitions

「博多織」、「博多人形」を中心に、その歴史や製作工程を紹介しながら、歴史的評価の高い芸術作品や現代のライフスタイルにマッチした作品などを展示。さらに「博多曲物」「博多独楽」「博多鉢」「博多張子」「マルティグラス」「今宿人形」「博多おきあげ」などの福岡・博多にゆかりのある福岡県知事指定特産民芸品も紹介しています。

受付・販売コーナー | Reception・Sales

博多織、博多人形、福岡県知事指定特産民芸品の販売の他、ここでしか買えない福の神オリジナルグッズやはかた伝統工芸館お薦めの工芸品などがあります。

工芸体験コーナー | Craft Experience

お子様から大人まで博多織で小物を作ったり・博多張子の絵付けなどができる工芸体験スペースを随時開設しています。また、毎週第1〜3日曜日は講師を迎えた体験教室を実施しています。詳しくは、はかた伝統工芸館ホームページでご確認ください。



体験スケジュール 14時〜16時(当日受付)

第1日曜日	博多人形 (絵付け体験など)
第2日曜日	博多張子 (絵付け体験など)
第3日曜日	博多織 (小物作りなど)

企画展示スペース | Special Exhibitions

時期に応じて、伝統工芸品をはじめとする多彩な展示会や講演会などを開催している企画展示スペースです。工芸品の展示はもちろんワークショップやイベントなどの利用も可能。次代を担う新進作家たちの作品も、ここから発信しています。

